

## 眼科初期臨床研修プログラム(選択科)

研修責任者 藤田 太一

研修期間 4週～

### I. 対象となる疾患・病態

外眼部疾患：麦粒腫，霰粒腫，眼瞼内反・外反，睫毛乱生など

前眼部疾患：結膜炎，強膜炎，虹彩炎，角膜潰瘍，乾性角結膜炎，

水晶体疾患：白内障，水晶体脱臼

緑内障

眼底疾患：加齢黄斑変性、ぶどう膜炎、網膜剥離、中心性漿液性脈絡網膜症、硝子体出血、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、未熟児網膜症など

その他：斜視，弱視，外傷など

### II. 研修到達目標

#### ・一般目標 (GIO ;General Instruction Objective) ①

- 1) 眼科疾患全般に関して病態把握、診断、治療等に関する知識を得る。
- 2) 眼科診療における適切な問診が行えるようにする。
- 3) 眼科の細隙灯顕微鏡や眼底鏡、眼圧計を用いた一般的な診察技術を習得する。

#### ・行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ①

- 1) 初診患者の予診を取り、必要な場合には細隙灯顕微鏡や眼底鏡を用いて、眼症状を生じた病態を推測する。
- 2) 初診患者において推測された病態に対する適切な検査を選択する。
- 3) 指導医とともに診察を行い、検査結果と併せ、病態把握と治療方針を立てる。

#### ・一般目標 (GIO ;General Instruction Objective) ②

- 1) 日常診療で遭遇する機会が多い眼疾患（白内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、緑内障、網膜剥離等）の診断と初期対応ができる。
- 2) 基礎的な眼科手術手技を学ぶ。

#### ・行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ②

- 1) 入院患者の回診を行い、経過や手術合併症の評価を行い、必要な対応を計画する。
- 2) 眼科治療薬（主に点眼薬）の分類、作用、主な副作用について述べる。
- 3) 眼底写真、眼底造影写真から病態を把握する。
- 4) 患者の病態から必要な外科的関与が必要かどうか判断し、その具体的方法を選択する。
- 5) 眼科手術の介助に付き、手術の流れを知り、顕微鏡下の操作に慣れる。
- 6) 指導医のもとで、単純な切開・縫合などの技術を取得する。
- 7) 指導医のもとで、小手術（翼状片や霰粒腫）の執刀を行う。

#### ・一般目標 (GIO ;General Instruction Objective) ③

眼科救急の実際を学ぶ。

#### ・行動目標 (BOs ;Structural Behavior Objectives) ③

眼科救急疾患の一次的な対応を行い、指導医の評価を得る。

### III. 方略 (研修場所：外来、病棟、手術室、救急外来)

#### ・外来

外来検査（視力、視野など）を行う。

外来で、初診患者の問診、予診をとる。

指導医とともに診察を行うことにより、細隙灯顕微鏡、眼底検査を習得する。

・病棟

入院患者の回診を行い、細隙灯顕微鏡、眼底検査を習得に努めるとともに、指導医とともに患者の経過の問題点、手術術後合併症等を把握し、対応を計画する。

・手術室

指導医のもとで、単純な切開・縫合などの技術を取得する。

指導医のもとで、小手術（翼状片や霰粒腫）の執刀を行う。

手術中の全身状態の把握をする。

・救急室

眼科救急疾患の一次的な対応を行い、指導医の評価を得る。

#### IV. 評価

指導医、担当医との討論、症例検討会での症例提示、レポート作成に当たっての指導医との討論の中で随時評価を行う。

#### V. 研修医への提言

眼科医が暗い部屋の中で、患者さんの眼を覗き込んでいるところを見たことがあると思います。困ったことに眼科の診察には専用の機器が必要であり、その習熟が必要なことから初期研修ではとっつきにくい科の一つと思われます。眼科は外科系ですが、手術の基本が micro surgery であり、顕微鏡下で行う動作は医療全般における汎用性に乏しいのが現実です。

「眼より命が大事。」当たり前です。しかしその裏にある、「生きている限り、眼は見えていたい。」という思いもまた万国共通です。見えないことは怖いことです。しかし全身と比べて眼はとても小さく、普段の診療において、その存在は医療者であっても意識の片隅に置かれがちでもあります。

この提言を読んでいただいているということは、眼科に興味を持っていただいているのでしょうか。そうであれば嬉しい限りです。眼科医を目指している方、当院での研修が未来の眼科医の一助となるよう我々も努力いたします。眼科医を目指していないけど研修を希望される方、見えていることの大切さを感じていただければ幸いです。

研修を検討したいという方、先ずはお気軽にお問い合わせください。